

HS-830 メンテナンスキット

このたびはホーザン HS-830 メンテナンスキット をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この製品情報をよくお読みになり、正しくお使いください。また、お読みになったあとも大切に保管してください。

入組明細

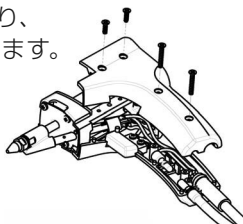
パーツケース	B-50-EF
テフロンパッキン	HS-802-14
パイプ掃除棒	HS-802-18
ノズル掃除棒	HS-802-21
ヒーターユニット	HS-810
ノズル(1mmφ)	HS-812
フィルターカートリッジ(×10)	HS-821
ポンプフィルター(×5)	HS-822



フィルターOリングセット(×2)	HS-826
ニップルOリング(×2)	HS-827
ノズルボックス	
ノズルスパナ	
作業手袋	

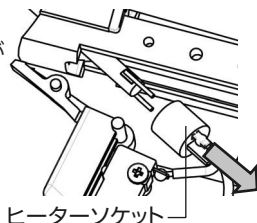
ヒーター交換方法

- 1** 電源スイッチを切り、接続プラグを外します。ヒーターに余熱があるときは、常温になってから作業してください。

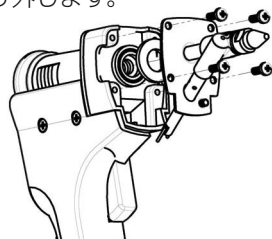


- 2** ネジが4本見えている側のハンドルカバーを開きます。4本のネジを外すと、開くことができます。反対側の2本のネジは緩めないでください。

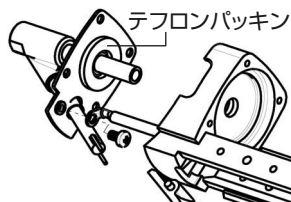
- 3** ヒーターからヒーターソケットを引き抜きます。このとき、必ずヒーターソケットをつかんで作業してください。電線を引っ張ると断線の恐れがあります。



- 4** 図の位置のネジを4本緩め、ヒーターユニットを取り外します。



- 5** アース端子をヒーターユニットから取り外します。新しいヒーターユニットにアース端子を取り付け、逆の手順で組み立ててください。

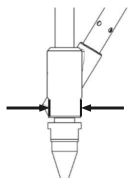


ヒーター交換方法

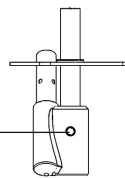
⚠ 注意

- ・ テフロンパッキンの取り付けを忘れないようにご注意ください。
- ・ テフロンパッキンの再利用はできません。新しいテフロンパッキンをご使用ください。
- ・ テフロンパッキンはなるべくパイプにセンターを合わせて取り付けてください。

ヒーターユニットにノズルを取り付けるときは、ヒーターユニットの平行な面(右図参照、矢印部分)をスパナでつかみ、ノズルボックスでノズルを回してください。



このネジは組立構造上のもので、決してゆるめないでください。

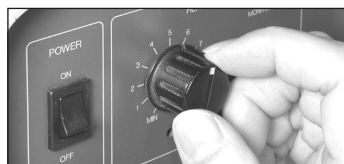


ヒーター交換時の補正方法 HS-801の場合

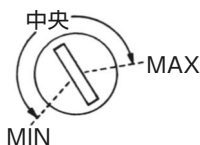
HS-801は出荷時に、ヒーターそれぞれが持つ固有の抵抗値に従って温度制御回路の調整をしてあります。ヒーターを交換した場合、温度制御回路の補正(再調整)が必要になりますので、次の手順で行ってください。

調整にはハンダゴテ温度計(約500℃まで測定可能なもの—当社H-769など)、マイナーストライバー(刃幅2mm以下)をご用意ください。

- 1 温度調節ツマミをMAXに設定します。



- 2 温度調節ツマミの下、トリマー調節窓の中のトリマーを可動範囲の中央付近に仮設定しておきます。



⚠ 注意

トリマーのMAX付近では瞬時に高温に達するため、セラミックヒーターが溶断する恐れがあります。必ず中央付近に仮設定してください。



- 3 電源を入れ、ノズル先端温度が安定するまで約2分間待ちます。
ハンダゴテ温度計でノズル先端温度を測定しながらトリマーをゆっくりまわし、480℃になるように設定します。

⚠ 注意

再調整をおこなわないままご使用になると、異常に温度が上昇する場合があります、大変危険です。再調整は必ず実施してください。



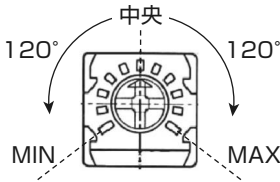
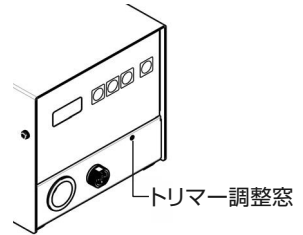
ヒーター交換時の補正方法 HS-802の場合

HS-802は出荷時に、ヒーターそれぞれが持つ固有の抵抗値に従って温度制御回路の調整をしてあります。ヒーターを交換した場合、温度制御回路の補正が必要になります。補正は次の手順で行ってください。

⚠ 注意

補正をおこなわないままご使用になると、異常に温度が上昇する場合があります、大変危険です。補正は必ず実施してください。

- 1 500℃まで測定できるハンダゴテ温度計と、マイナスドライバー（刃幅2mm以下）をご用意ください。
電源がOFFになっていることを確認し、操作パネル右下のトリマー調整窓からドライバーを使用し、トリマーを可動範囲の中央付近（MINから120°回転させた位置）に設定しておきます。



⚠ 注意

トリマーのMAX付近では瞬時に高温に達するため、セラミックヒーターが溶断する恐れがあります。必ず中央付近に仮設定してください。

- 2 SETキーを押しながら、電源スイッチをONにします。
確認音（消音時は除く。以降同様）とともに“SEt”が表示され、温度補正モードが起動します。
- 3 “360”が表示されたら、ノズル先端の温度が安定するまで約2分待ちます。
ハンダゴテ温度計でノズル先端の温度を測定しながら、トリマーをゆっくりまわし温度計の表示が360℃になるように設定します。
トリマーだけでは合わせにくい場合は、▲▼キーで希望温度に近づけます。▲で温度は上昇し、▼で温度は下降します。上下ともに『20』の補正範囲を設けています。
▲▼キーでの温度補正は、本機ディスプレイの数字ひとつの変化で1℃変化するとは限りません。
補正が完了したらSETキーを押します。
確認音とともに“SEt”⇒“400”と点滅表示されます。
以降、補正中はトリマーを触らないでください。
- 4 “400”が表示されたら、ハンダゴテ温度計でノズル先端の温度が400℃になるように▲▼キーで調整します。
補正が完了したらSETキーを押します。
確認音とともに“SEt”⇒“440”と点滅表示されます。

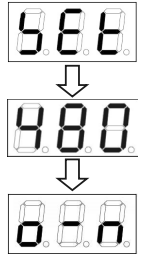


ヒーター交換時の補正方法 HS-802の場合

5 同様に440℃の補正を行い、完了したらSETキーを押します。
次の480℃も同じく補正し、SETキーを押します。

6 温度補正が完了し、確認音とともに“o-n”が表示され、
設定温度360℃で通常起動します。

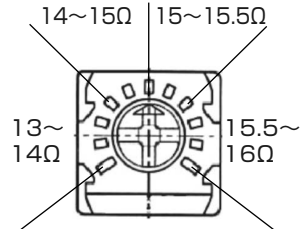
この操作により、変更された設定温度は工場出荷時の360℃に戻ります。必要に応じ再設定してご使用ください。



温度測定ができない(温度測定手段がない)場合

ノズル先端の温度測定ができない場合は、ヒーター端子間の抵抗値を測定のうえ、右図の位置にトリマーを調整してください。

この場合の設定温度は、あくまでも目安程度となってしまいますが、トリマーを調整せずに使用すると高温になりすぎるなど、非常に危険ですので必ず調整してください。



⚠ 注意

ヒーター端子間の抵抗値の測定は、必ず室温23℃で行ってください。室温の違いが抵抗値に大きく影響します。

上述のとおり、あくまでも目安程度の温度設定ですので、厳しい温度管理を必要とする作業には適さないばかりか、場合によっては周辺電子部品を損傷する恐れもあります。できるだけ早い内に、改めて正確に再補正することをおすすめします。

別売 H-769 ハンダゴテ温度計

ハンダゴテ温度計として3つの機能を搭載

- ①計測結果をSDカードに保存する記録機能
- ②計測結果からOK/NGを表示する合否判定機能
- ③ICタグを使ってハンダゴテを管理するハンダゴテ識別機能



技術的なお問い合わせ

ホーサン テクニカルホットライン

☎06-6567-3132 E-mail : th@hozan.co.jp

【月曜日から金曜日(祝日を除く)の10:30~12:00、13:00~17:00】

補修部品については、Web上のパーツリストをご覧ください。
通信販売もご利用いただけます。

[ホーサン](#) [通信販売](#) [検索](#)

ホーサン株式会社

本社 〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-12
TEL (06) 6567-3111 FAX (06) 6562-0024